信　条
本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。
（会則第3条）

法政大學 社会学部 同窓会報

Vol.28

法政大学社会学部同窓会
発行人　鹿山　秀佳（同窓会会長）
編集人　伊藤　正義（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学3号館（図書館・研究所棟）5階
TEL・FAX　042－783－2421
http://www.houseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140－1－63762

教授会執行部と同窓会役員との懇談会開く

この4月から新カリキュラム7コース・8プログラム制が導入。舩橋学部長から壽福学部長の新教授会執行部が誕生。学生・教職員・同窓会の連携で、進化しつづけるアカデミックコミュニティの伝統力が期待されます。

去る5月16日(火)、社会学部棟（多摩）7階会議室Aにおいて、教授会新執行部（壽福学部長、増田、藤田主任、鈴木智道副主任）と同窓会役員（鹿山会長、近藤、伊藤副会長、濱名、会田理事）との恒例の懇談会が開催された。

懇談に先立って自己紹介が行われ、例年にも増して和やかな空気が流れて、これまでの対話の積み重ねを感じさせられた。懇談要旨については、次にまとめ報告にかえたい。

06年度社会学部の

教授会新執行部が誕生

進化しつづけるアカデミックコミュニティ

展望としての2点

先ず、少子化問題が具体化する07年、18歳人口の減少に対応するためには確かな教育理念が大切である。その土台は人間形成、自立した市民としてどう生きるか、がベースとなるであろう。

学生間の話し合い、教員との研究の質を高め、教員、学生の一人一人が地域社会にどう発信するかによって社会的な認知が得られると思う。

学部としての7コース・8プログラム制については今日に社会が抱える問題領域を網羅するものとして学生の問題関心に沿って個々人が体系的、系統的に選び研究を深め、プログラムにおいて、より実践的に独自の核を道具、手段、或いは就職をも含めて教員と話し合いながらそれぞれに積み上げて行く。

ゼミ研究発表も活発
優秀卒論集の発行

次に、ゼミについてであるが社会学部では、一年は基礎ゼミ、二年から専門ゼミを履修するが深く現実を見る上での四年間の勉学の位置づけとなっている。

ゼミ間の交流も活発で昨年12月に研究発表会も開催され報告を含めて小冊子化され大きな刺激となっている。

また、初めての試みとして卒業論文の優秀なものを集めて昨年に引き続き論文集を発行、後輩の目標となっている。

（近藤）

2つの課題

社会学部長
壽福　眞美　教授
（社会哲学）

同窓会の皆さんには、学生の教育について日常的に深い理解と温かい支援を頂き、ありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

さて、今年度は特筆すべき二つの課題に絞って、簡略にご紹介・ご説明をしたいと思います。

一つは、7コース・8プログラムを中心とする新しいカリキュラムが具体化・実施されます。学生は、一人ひとりの個性的な問題関心に応じて、問題領域・対象毎のコースを選択し、体系的・専門的に学び研究することができます。プログラムの目的は、研究・仕事に必要な技術・方法を体得的・集中的に学ぶことです。両者が相俟って、各々の独自の研究課題に必要な基盤・土台を築くことができるでしょう。

それらを踏まえて、大学生らしい専門的な研究は、学生としての基本を学ぶ基礎ゼミから、2年から始まる専門ゼミを通じて、4年間一貫して体系的・総合的に深めることができます。

その目的は、理論的・歴史的・政策的分析と理解だけでなく、広範囲にわたる現実の調査・実習を踏まえて、真の意味で現代社会の諸問題を考察・追究できる学生として成長し、各々の自己実現能力を開花させることです。

二つ目は、総長の新たな選出方法が導入されようとしていることです。これまでの教職員による直接選挙を廃止して、選考委員会による候補者の推薦と評議員会の意見聴取を踏まえて、理事会が選任するというものです。そして、「理事長と区別された学長の役割と選考委員会」を内容とする諮問委員が設置されたことです（4・28）。

自己実現能力の開花を期待

総長等の選出方法は衆議を

総長・理事会のあり方、選出方法は、教育機関たる大学の意思決定の要諦です。少なくとも次の二点は確認しておかなければなりません。第一に、学生の教育に直接責任を負っている私たち教職員の意思が反映される必要があります。第二に、このような根本的な制度改革は、短兵急にことを急ぐのではなく、大学の全構成員が参加する、時間をかけた徹底的な衆議を経なければなりません。

—あの日、あの頃… 市ヶ谷で—
第18回社会学部同窓会定期総会のご案内

時下の候、会員の皆様にはご健勝のことと存じます。平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年も会則第5条に基づいて下記の通り同窓会定期総会を開催いたします。

変貌する母校の姿を目の当たりにして久しく旧交を温めたいと思います。是非ご参加をお待ちしております。

法政大学社会学部同窓会　会長　鹿山秀佳

記

日　時　2006年7月8日(土) 午後1時30分（受付午後1時）
場　所　法政大学市ヶ谷キャンパス

第1部　総　会

時　間　午後1時30分
場　所　55年館　5階　551教室
議　題　活動報告、06年度活動方針、予・決算報告、その他

第2部　講演会

時　間　午後2時30分
場　所　55年館　5階　551教室
講　師　永井 進氏（芝落語会会長）59年社・応卒 増島ゼミ
テーマ　「ウソとホント—落語とその周辺—」

第3部　懇親会

時　間　午後3時30分～午後6時
会　費　5,000円（同伴者3,000円）

以上

お問い合わせ……
社会学部同窓会事務局（月・水　10時～15時）
TEL & FAX：042-783-2421

卒業生のキャリアから学ぶ…
第6回連続講座「仕事と学問」のご案内

社会学部同窓会では05年度より教授会の後援を得て、公開講座を無料でスタートさせました。お気軽にご参加ください。

日　時　7月7日(金)午後5時30分
場　所　法政大学多摩キャンパス　社会学部棟302教室
講　師　和多田 進氏（ジャーナリスト）68年社・社卒、芝田ゼミ
テーマ　「生きてるうちが花なのよ」

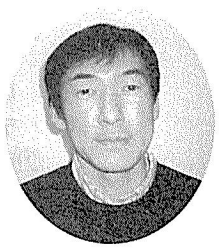
教育改革の最先端を

学部の評価に努力する

教授会主任　藤田 真文 教授
（コミュニケーション論・メディア論）

この度壽福学部長のもとで教授会主任を務めることになりました。法政に奉職して8年目という新参者ですので、まだ与えられた重責に緊張の面持ちで日々を過ごしているというのが正直な現在の心境です。

舩橋前学部長時代、社会学部は「7コース8プログラム制」という大きなカリキュラム改革を行い。今年が、新カリキュラムが動き出す1年目となります。私は、かねてより社会学部は「教育への熱心さ」の点で、法政大学の最先端を走っていると自負していました。新カリキュラムを軌道に乗せることで、さらにその社会学部らしさを伸ばしていきたいと考えています。



微力ではありますが、今期執行部の任期が終了する2年後には、さらに社会学部が進化したと評価されるように努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

学問の府の創出を！

充実した学生の支援で

教授会主任　増田 正人 教授
（国際経済・国際金融論）

同窓会のみなさま、今年度、社会学部の主任の増田正人です。

講義では、地域研究（北米）、国際社会論（Ⅱ部）を担当しています。1989年に社会学部に就職してから、今年で18年目になります。自分では、若手だと思っていたのですが、いつのまにか、主任をするような年齢になってしまいました。

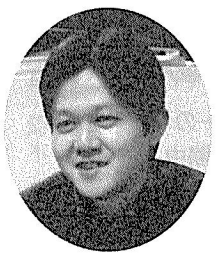
今年度の主任としての目標は、今年スタートした新しいカリキュラム（7コース・8プログラム）をスムーズに実行していくことです。新カリキュラムの成果がでるのは、学生たちが卒業していく4年後以降になりますが、それまで、学生たちが充実した大学時代を過ごせるように支援していきたいと考えています。

様々に揺れ動く時代ですが、多摩の地にしっかりと足をつけて、学問の府らしい法政大学、社会学部を創っていきたいと思っています。

学部のよき伝統の証

学生力の更なる飛躍へ

教授会主任　鈴木 智道 助教授
（歴史社会学・教育社会学）

法政大学に着任して6年目。社会学部54年の歴史を1年に置き換えれば、私がこの学部で過ごした時間はわずか1ヶ月ほどにしかすぎません。まだまだ若輩の範疇だと思っていたところの副主任就任の話しでしたが、やはり若輩であることにはかわりはないようです。時には同窓会の諸先達のお知恵が必要とされるときもあるやに思います。その折には、なにとぞご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副主任の仕事は学生生活関係が中心となります。しばしば「今どきの大学生は、かわった」などと言われますが、社会学部の学生にはまだまだアナドレナイ力が宿っています。これも社会学部のよき伝統が有形無形に引き継がれている証だといえるでしょう。そうした学生の力をさらなる飛躍への原動力へとかえていく手助けができるよう尽力していきたいと考えております。